

写真は一部的あまり重要と思われない遺物に關しては除かれているが、これはすべての資料を取録するためにはある程度やむを得ないことであろう。また掲載された写真は小さいが、小さいながらも鮮明であり、記述もまた写真ではわかりにくい点をよく補つてい

る。この他に、特に優品を選び、その原色図版を六葉挿入して、本書に華かさをそえてい

る。さらに索引と引用の便をはかつてつけられた目録番号は都道府県ごとに一連番号となつており、博物館の台帳に記入された登録番号や、収録資料遺跡別目次などとともに編集者の行届いた配慮が伺える。それとともに本文の簡にして要を得た記述は、鮮明な写真と相俟つて本書の考古学資料目録としての価値をいつそう高めている。

このような考古学資料目録が、このたび京都大学文学部博物館から刊行されたことは誠に喜ばしいことであるが、他の博物館・陳列館・研究室などにおいても、同様な資料目録が刊行される事を強く希望するのは、ひとり紹介者ばかりではあるまい。最後に数多い資料を巧みに本書にまとめられた編集者の努力と手腕にたいして敬意を表するとともに、第

二部・第三部の刊行を切望しながら紹介の筆をおく。

(B5判二九頁 一九六〇年三月 京都大学文学部刊) (河原純之)

J. Edward Kidder, Jr.

JAPAN - Before Buddhism -

London

Thames & Hudson 1959

欧文の日本考古学概説書は、ひじょうにすくない。周知の N. G. Munro の "Prehistoric Japan" は、もう五十年前のもので古く、1951 に出た G. J. Groot の "The Prehistory of Japan" は、縄文時代の文化に限られる。

海外の考古学者・文化人類学者のあいだには、日本における最も古い段階から歴史につながる頃までの文化の発達を正しく通観した

いとの希望が高まつている。ある特定の問題、遺跡の発掘に關する簡略化された欧文梗概があつても、全般を理解するに十分な欧文の著作がないとの声をしばしば聞くのは当然である。かような学界の要請に応えるには、日本人学者が欧文でこの種の著述を試みる

か、欧米人学者が日本人学者の研究と業績を十分理解評価して自国語で著述するからであるが、現状では、後者の方の機会が多い。キッダー博士はそういう機会を正当にとらえて本書を世に送つた。

本書は次の如き章と節より成る。

第一章 旧石器時代と中石器時代

第二章 新石器時代

遺跡・食糧資源・道具と土器・

風俗慣習と信仰・新石器時代人

第三章 青銅器・鉄器の時代

米作りの共同体・葬法・青銅器・

土器・慣習と祭祀

第四章 原史時代

共同体・鉄・埋葬址・墳墓内の

遺物・墳墓表飾と彫刻・神殿

図版と挿図は、既刊の同書分冊中では最も多いもののひとつで、写真一〇八枚、挿図六十五、地図七より成る。

本書は、イギリスの考古学者 Glyn Daniel 博士が、総括編集しての *The Ancient Peoples and Places* 叢書の一冊である。この叢書は豊富な写真版と挿図を通じて、世界各地の古文

化をひろく理解させようとする。著者キッ

博士は、アメリカ合衆国ニューヨーク大学で美術史を専攻し、東洋考古学および美術史の権威者のひとりであつた故A・サルモニー博士に師事して、中国および日本の考古学および美術史に特に関心を持つようになつた。一九五六年以来、東京都三鷹市にある国際基督教大学の教授となり、美術史と考古学を担当しているが、それまでは、アメリカ合衆国セントルイス市のワシントン大学で美術考古学を教授していた。その間、一九五三—四年には、フルブライト奨学金を得て、日本に留学し、京都大学文学部考古学研究室で日本考古学の研究に専念、また西日本の諸地域に旅行して研究資料を作製した。国際基督教大学に迎えられてからも、北海道や東日本各地に考古学研究の旅をかさねたり、同大学構内の縄文時代住居址の発掘調査を行うなど、

さかんな学問的活動を続けている。数年前の出版、*"The Jomon Pottery of Japan"* は、わが縄文土器の総合的研究をまとめた好著として、欧米の学界に知られているが、先史時代日本文化に関する彼の研究は、その日本留学前から着手され、十分年季のかかつたものである。したがつて、キッター博士が、本

書中の「日本」を執筆されたのは、決して偶然ではないとおもう。

以上の如き経歴から考えられるように、博士は日本人学者の研究をひろく読んで理解し、彼らの業績を正しく評価するという条件をみたすことの出来る環境にある。本書の中に、極めて新しい資料がすくなくならずられているのは、多くの日本人学者が著者の仕事を助けたからにはかならない。日本文、欧文の参照すべき論文や著書のリストも添えてあつて、われわれ日本人にも、大いに役立つ。特にその所論は日本人学者とは違つた角度があるので、一読の価値ありと思う。

(有光 教一)

## 学界消息

### 史学研究会関係

七月例会

七月二日(土) 於・京大薬友会館

中国近世の観音信仰 佐伯 富

新発見の高句麗古墳 有光 教一

十月例会

十月一日(土) 於・京大薬友会館

二つの学会に出席して 宮崎 市定

——国際歴史学会と東方学者会議——

8ミリシネ映写

### 国史関係

読史会七月例会

七月九日(土) 於陳列館演習室

帝國主義と民主主義 鈴木 良氏

ナショナルリズムと外交 彭 沢 周氏

読史会九月例会

九月十日(土) 於陳列館演習室

沖繩の旅から 横田 健一氏

歐洲の旅から 柴田 実氏

読史会十月例会

十月八日(土) 於陳列館演習室